

グループホーム ゆうなぎ(認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評価結果概要表

作成日 21 年 3 月 27 日

【評価実施概要】

事業所番号	1890100140
法人名	社会福祉法人 国見慈光会
事業所名	グループホーム ゆうなぎ
所在地	福井市鮎川町91-37 (電話) 0776-88-2440

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成21年2月10日	評価確定日	平成21年3月27日

【情報提供票より】 (21 年 2 月 2 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 19 年 4 月 10 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	6 人、非常勤 3 人、常勤換算 6.4 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	2 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	3,500 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要 (2 月 2 日 現在)

利用者数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3	要介護2	2		
要介護3	4	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85.7 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	富沢クリニック 森瀬歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、日本海に面した沿岸地域にあり、海と山に囲まれ、ホーム内外から四季の自然を肌で感じることができる環境に恵まれた場所にある。海岸線の主要道路から入った昔ながらの集落の中にあるため、昼間でも穏やかで心落ち着ける雰囲気がある。
 建物は2階建てで、1階には小規模多機能ホームを併設し、2階部分が1ユニットのグループホームとなっている。ホームの共有空間は、大きなベランダにつながっており、ホームの庭の檜や大きくそびえる山、夕日の見える海を眺めることができる。居間にはテーブルやソファが配置され、利用者が安心してくつろぐことができるスペースが確保されており、壁にある飾りやカレンダーからは季節感が感じられる。居室は洋間であるが、畳敷きにすることも可能であり、入居者や家族が馴染みの物を自由に持ち込み、思い通りに配置している。
 管理者が地元住民であることや地域との関係を重視していることから、イベント時のみならず普段の生活においても地域との交流がある。災害や緊急時における地域との連携体制も整えられており、入居者の安心した生活につながっている。
 理念には「その人らしい生き方」を掲げており、職員は入居者ができることはしてもらうという目標をもって支援にあたっている。訪問調査当日も、職員と入居者の笑顔や楽しげなおしゃべり、入居者の状態に応じた自然な関わりを見ることができた。今後も、地域の中で入居者のその人らしい生き方を支えるホームとなることが期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果を受けて、管理者と職員は課題改善に積極的に取り組んでいる。具体的には、ホーム独自の理念の作成と掲示、運営推進会議の会議録の整備、介護相談員の活用と地域包括支援センターとの連携、介護計画の立案や記録方法の改善等、この1年間での取り組みの成果は大きい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者が職員の意見を反映して作成しており、さらに職員会議でも確認作業を行って職員の意見が十分に反映された内容となっている。ヒアリングでも、前回の改善課題については、具体的な改善に向けた取り組みを行いながら、それらが適切であるのかも再度自己評価するなど前向きな姿勢を強く感じることができた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は、2か月に1回開催され、議事録も作成されている。家族の代表、地区自治会、民生児童委員、地域包括支援センターがメンバーとなっている。地域からの意見で、シルバー喫茶への参加につなげたり、入居者が一人でも外出している場合の地域の見守り体制をホーム側から投げかけるなど、活発な議論がなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	管理者は面会時には必ず家族から話を聞くように心がけており、家族は要望等を伝えやすい状況となっている。家族アンケートでも、気軽に相談できるという回答が見られ、運営推進会議でも大きな不満は出ていない。管理者と家族とは良好な関係ができており、家族同士の集まりの中で希望や要望を吸い上げる仕組みはないため、家族がより率直な意見や要望を発言できるよう、家族参加の行事の時に家族のみで話し合うような機会を設けるなどの取り組みも期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは町内会に加入しており、地域の一員となっている。過疎や高齢化が進む地域にあるホームであるが、周囲は昔ながらの民家が密集しており、地域住民との自然な交流がなされている。農作物の差し入れや山菜の収穫場所を住民から知らせてもらったりと、日常的なつきあいのほか、入居者が地区の敬老会やシルバー喫茶へ参加したり、ホーム主催の活動に地域住民が参加したりしている。ホーム便りも地域向けに発行している。

2. 評価結果（詳細）

は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営			
		1 理念の共有			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしい生き方」「高齢者が安心して暮らすことができる地域づくりへの貢献」という法人の運営理念がある。また、職員全員で作成したグループホーム独自の介護目標に「生活支援」を掲げ、職員はくつろぎの場や居場所づくりを心がけている。理念は、来所者や家族に分かりやすいようにホーム入り口に掲示してある。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	生活支援という目標の下、入居者ができることはしてもらうというスタンスで、能力に応じての見守りや介助を行うというケアを実践している。また、職員は入居者の表情や言動で確認しながら、くつろぎの場づくり、居場所づくりに取り組んでいる。		
		2 地域との支えあい			
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは町内会に加入し、地域住民の一員となっている。入居者は地区の敬老会やシルバー喫茶へ参加したり、ホーム主催の活動に地域住民が参加したりと相互交流が盛んである。また、季節を味わえる野菜の差し入れや山菜の収穫場所を住民から知らせてもらったりと、日常的なつきあいができている。ホーム便りも地域向けに発行している。		
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を踏まえ、この1年の成果をヒアリングと記録から確認できた。今回の自己評価も職員と管理者が共同であたっており、今後も外部評価を真摯に受け止め、ホームの運営に活かしていこうとする姿勢がうかがえた。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回開催され、議事録も作成されている。家族代表、地区自治会、民生児童委員、地域包括支援センターがメンバーとなっている。地域からの意見で、シルバー喫茶への参加にツなげたり、入居者が一人で外出している場合の地域の見守りをホーム側から投げかけるなど、活発な議論がなされている。		
	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとの情報交換や介護相談員の定期的な訪問を受け、入居者の相談に応じてもらっている。介護相談員との対話を楽しみにしている入居者もあり、今後も継続する予定である。		
		4 理念を実践するための体制			
	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者ごとに最近の様子を便りにして、毎月送付している。また、入居者ごとにアルバムも作成しており、面会に来た家族が入居者のいろんな表情を写真で楽しむことができるように配慮されている。		
	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は面会時には必ず家族から話を聞くように心がけており、入居者の生活や洋服の好み等に関して要望を受けている。しかし、家族同士の集まりの中で希望や要望を吸い上げる仕組みはない。		家族がより率直な意見や要望を発言できるよう、家族参加の行事の時に家族のみで話し合うような機会を設けるなどの取り組みも期待したい。
	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度、職員の異動はなかったが、新しい職員の場合には、いきなり入居者の担当になるのではなく、散歩や調理、掃除といった全体での関わりを通して馴染みの関係ができてからマンツーマンで関わるケアに移行するように配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には出張扱いで参加しやすいように配慮がなされている。研修参加後にレポート提出と職員会議での発表、各職員への資料の供覧等研修内容を共有する仕組みがある。		研修内容を事業所内で共有する仕組みはあるが、全職員が目を通したことが確認できない資料もあるため、確実に供覧がなされるように管理者のチェック体制もさらに期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の運営者は事業者の連絡協議会に参加したり、管理者は同業者と相談したりしている。また、職員レベルでも外部研修への参加や他のホームでの実習を通して、同業者との交流がある。		
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、本人や家族の見学を勧めている。また、管理者が自宅を訪問し、対話を通じて本人の気持ちを受け止め、無理のない入居心がけている。さらに、家族との面談を行って情報共有を図っている。入居から3か月位は、細かくケアを行い、家族に対しては生活状況を詳細に伝えている。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	訪問調査当日、入居者と職員が、穏やかな雰囲気の中で過ごしている様子を確認することができた。また、入居者と共に過ごす中で、子育てや料理、二十四節気等を教わりながら、支援にあたっていることが職員のヒアリングから確認できた。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からこれまでの生活様式や特技等を確認したり、入居者との会話、表情、言動や暮らしぶりから一人ひとりに合ったその人らしい生活支援を行っている。		
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーが本人や家族の意向を踏まえながら、介護計画を立案し、職員や家族に再確認しており、それぞれの意見や意向が反映された介護計画となっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	生活を共にする中で把握した入居者の言動や介護記録、職員や家族の意向を踏まえて見直しを行っている。また、一時的に体調不良や身体状況が変化した場合、職員間で重要な事項を申し送りして日々の支援を行っており、柔軟な対応を心がけている。		
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の小規模多機能ホームとの合同活動や年1回の地域交流会のほか、保育園児との交流等地域を巻き込んだ様々な活動が展開されている。特に、地区住民に対して体力測定を実施したり、ホームでのラジオ体操に地域の高齢者も参加してもらうなど地域の健康づくりにも取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今後のかかりつけ医について検討している。了解が得られれば事業所の協力医に変わってもらうが、これまでのかかりつけ医への継続受診も可能である。受診にはケアマネジャーが同行しており、医療機関との支援体制は構築されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は重度化した入居者はいない。歩行困難、臥床生活となった場合でもホームで対応したい意向はあるが、事業所としての体制上、看護師が不在であり、医療・看護が必要な場合には他機関を紹介している。		今後、入居者の重度化する状況や職員との関係の深まりを考慮して、看取りについての方針を事業所全体で検討し書面にすることや、家族の意向についても話し合いの機会を持つことが求められる。
		その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重		
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には採用時に守秘義務の説明と誓約書を書かせている。家族には、個人情報の取り扱いの説明と地域行事への参加の可否を確認している。地域の協力者にもプライバシーの保護について説明して、合同行事を実施している。介護記録は戸棚に保管し、排泄介助等もプライドを損ねない対応が徹底されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、入居者の言動や表情等から、その日の過ごし方を決めている。散歩や買い物、共同活動も入居者の意向・意欲を大切にしている。		
		(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、入居者の希望を取り入れるようにしている。また、野菜を切る作業や盛り付けも、能力に応じて入居者に行ってもらっている。時には外食も取り入れて、楽しみとなるように工夫している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的に週2回であるが、入居者の希望に応じて毎日でも入浴は可能である。また、身体が汚れた場合はシャワー入浴も取り入れて柔軟に対応している。		
		(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や家事、縫い物や畑作業を職員と共にっており、入居者の生活歴や職歴を活かした支援を行っている。時には男性入居者に力作業をお願いしたりと入居者個々に役割をもってもらえるように配慮している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人での外出が可能な入居者が自由に買い物に出かけたり、他の入居者も職員の付き添いで散歩や食材の買出しに出かけており、戸外の空気や町並みを味わう支援を行っている。		
		(4)安心と安全を支える支援			
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自動ドアの玄関や居室には鍵をかけておらず自由に入出入りができる。また、入居者が戸外に出る場合は、職員による見守りがなされている。入居者が一人で散歩していると地域住民から事業所に連絡があったりと、地域の見守りや連携ができています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、火災や地震を想定しての訓練を実施している。職員の緊急時マニュアルもあり、近隣の応援体制も整備されている。また、非常持ち出し袋には、数日分の薬や医療器具が準備されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分補給には配慮しており、厚生労働省作成の「食事バランスガイド」を用いて献立を作成している。水分は摂取回数を記録し、1日の目安量を1～1.5リットルに設定している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには2卓のテーブルやソファが配置され、壁には入居者が作成したちぎり絵や書道作品、小物があり、季節感が感じられ、入居者が落ち着けるように配慮されている。フローからは庭の椿や夕陽を眺めることができ、心の安らぐ空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は畳かベッドの使用を自由に選択でき、入居者が過ごしやすいように自由にアレンジできるようになっている。物品も入居者が自由に持ち込めるようになっており、使い慣れたミシンや配偶者の遺影が置いている様子が見学から確認できた。		

自己評価票

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者と職員がともに、生活共同体の場として、喜怒哀楽を共有し、職員は日常生活の援助者という立場で支援している。理念は職員各自に配布し、事業所内にも掲示している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議や日々の業務の中で、理念を確認しあい、理念に基づいたケアに取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域に開かれた事業所を目指し、開設時は説明会を開き、その後も、新聞の発行や地域交流会の開催に取り組んでいる。		地域の方に「認知症」について正しい知識を持っていただくよう啓発活動を行いたい。
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方から花や野菜をいただいたり、囲碁の相手などいただいている。気軽に利用者の方に話し相手になっていただいている。みんなラジ推進隊になり、地域の方と一緒にラジオ体操をしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域交流会の開催、地区の文化祭、敬老会、シルバー喫茶への参加をしている。また、地域の保育園との交流などを行っている。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方に集まっていただけ場にはしたいと考え、高齢者向けの体力測定を行ったり、ラジオ体操を一緒にしている。地区の一人暮らしを応援する目的でふれあい広場を開催し、昼食を提供している。		地域で一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦世帯を支える取り組みを行いたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が意義を理解する場を持ち、全員で取り組んでいる。日々の実践の見直し、サービスの質の向上につながっている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、事業所の活動や利用状況、苦情、事故などありのままに報告し、意見をいただきサービスの向上に努めている。また、課題や事業内容に助言をいただいている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設当初、市の担当者に来所していただき、指導を受けた。また、分からないことなどは確認し、助言を受けている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設長が権利擁護推進員養成研修を受け、スタッフが学習する機会を設けた。		制度を实际利用したことはないが、今後も他のスタッフを研修に参加させたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員を研修に派遣し、職員会で報告し、報告書の回覧を行い学ぶ機会を持った。日々の話し合いの中で、どのようなことが虐待にあたるか考え、話し合い、職員同士が注意している。		
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長と管理者が二人で行い、家族と話し合う時間を十分とっている。重要事項説明書、契約書を家族と確認しながら理解、納得をしていただいている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付のポスターを玄関口に掲示している。意見や不満が表せる関係づくりに努めている。意見箱を設置している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の方へ、毎月の請求書と一緒に「最近のご様子」を同封し、様子や変化を伝えている。また、面会時には写真を見せたり、家族と話をする時間を持つようにしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず話をするようにし、意見や不満がないか、お聞きしている。運営推進会議に出席していただき、意見を反映させている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、施設長との個々の面談を通して職員の意見、提案を聞き、反映させている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	努めているが、職員の確保がなかなか難しい。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は職員の異動はせず、なじみのある職員による支援を受けられるようにしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	極力、偏りがないよう職員が研修を受けられるようにし、受ける研修もさまざまな分野を選択している。法人内の研修は外部講師を呼んで行った。		今年度は1回であったので、法人内での研修の回数を増やしたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長、管理者、は連絡協議会の出席を通して、情報交換に努めている。研修会に参加し、他の施設職員と交流の機会を持てるようにしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	遠方の職員は早出、遅出の勤務の免除をし、育児中の職員には土日の休みの確保をなどし、配慮している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	十分にはできていない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	まず、自宅にケアマネジャーが訪問し、本人からも話を聞き、入居前の不安な気持ちを受け止めるようにしている。契約時には運営者も立会い、五本ににや家族の状況を把握するように努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	相談、見学、訪問、契約の各段階で、話を聴く機会を設け、運営者も立会い、状況を把握するように努めている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、相談内容と置かれている状況を聴き、ご本人と家族にとって、今、なにが必要なサービスなのかを検討し、対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり、入居するのではなく、ご本人にも見学にきていただきたい、事前にケアマネジャーが訪問を行い、気持ちを受け止めるようにしている。また、入居初期はご様子の変化に注意し、家族と頻りにやりとりしながら、細かくケア内容を変更、検討している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々、生活を共にし、職員も利用者の考え方やよい習慣、特技などを見習うようにしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日常生活の様子や職員との会話で得た情報をお伝えするようにしている。行事への参加のご案内や、利用者のことで何かあれば、相談し、一緒に考え、支えあう関係づくりに努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には、利用者と楽しく話ができるように雰囲気づくりに努めている。面と向かってはおっしゃらない家族に対しての感謝の思いなど代弁するよう努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人同士の集まりへの参加援助や、行きたい場所へお連れするなどして、以前と同じような関係が保てるよう支援している。しかし、当事業所が市内からは遠方のため、なじみの場所から離れてしまうことおおい。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	出かけるときや、何かをするときは全員に声をかけ、お互いに関わりあえるようにしている。元気な方にはできない方のお手伝いや話相手をしていただく、寂しいときは慰めあうなど、支えあって、生活していただいている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在、このようなケースに該当する人がいない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話し合える方とは、直接、話をしながら、ケア内容を決めている。困難な場合も、日々の生活状況、家族からの聞き取りなどを通して、本人本位に検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やご本人に直接聞いたり、毎日の生活状況の中から把握するように努めている。		センター方式を活用して、より把握していくよう努めたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の、過ごし方や、話されたこと、心身状態はカルテに記録をし、見返し、把握ができるようにしている。		センター方式を活用して、より把握し、スタッフ全員が共有できるように努めたい。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成者がプランのたたき台をつくり、本人、各職員の意見を盛り込んだ計画を作成している。介護職員も意見やアイデアを伝え合い、反映させている。		家族とも話し合い、介護計画を練り上げていきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に一度の定期的な見直しと本人の変化に応じて、細かく変更を行っている。また、入居後間もない方に関しては、特に家族と連絡をとりあい、対応している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録、業務日誌、申し送りノートを作成し、情報の共有、実践の見直しに利用している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	帰宅要望のある方は、自宅までお連れしたり、買い物へ行く、喫茶店に行くなど、一人一人の要望がかなうよう支援している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の消防署の方に避難訓練を指導していただいたり、交番の駐在員の方には、立ち寄っていただいたりしている。民生委員は運営推進委員のメンバーに入っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	協力機関として、近隣の特養施設や居宅支援事業所、地域包括支援センターと情報共有、交換、相談をしながら、支援をすすめている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	主任ケアマネージャには運営推進委員のメンバーになっていただき、報告、相談を行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医にかかれるよう受診援助している。病状把握のため、受診のつきそいを行っている。また、了解が得られれば、当事業所の協力病院に変わっていただいている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診支援はしていない。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	体調の変化のある方は、同建物内にある小規模多機能ホームの看護師に健康管理や処置をしてもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先への訪問を行い、主治医、看護師、相談員と、情報交換、相談に努めている。医療機関に立ち寄り、事業所の状況をつたえるなど関係づくりに努めている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看護師がいないため、看取りや医療行為が必要な方には対応できない。そのような場合は、家族と話し合い、他の事業所、病院へ変わっていただいている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度となった方はかかりつけ医と相談しながら、対応しているが、今後の、検討や準備を行っていない。看護師がいないため、看取りや医療行為が必要な方には対応できない。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人に納得して入所していただくにはどうしたらよいかを家族と話し合っている。本人の好きなもの、写真、なじみのものなど居室に持ち込んでいただいている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>対応や言葉使いについて、お互いに注意している。記録は戸棚の中に保管している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>言動は否定せず、寄り添って傾聴するようにしている。その人が決めたり、納得されるまで、働きかけを行っている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>危険がないよう見守りは行っているが、無理な声かけはせず、その人が好きなペースで自由に生活できるようにしている。どのようにしていいかわからない方には、どのように過ごしたいのか、聞きながら支援している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>状況に応じて、近所の理・美容店に出かけたり、来ていただいたりしている。外出や年中行事のときなどは、その方が大事にしている衣服を着ていただいている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>外食やバイキングを時々取り入れている。盛り付け、後片付けはしていただいたり、調理は野菜を切っていただいたり、味見をしていただいている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒やたばこは特に制限を設けていない。おやつも希望があれば近くの商店で好きなものを買っていただいている。本人の希望に添えるよう努めている。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄のサインや排泄パターンにを把握し、できるだけ、自力で排泄ができるように働きかけている。ご本人の力に合わせた介助をし、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴の曜日は決めているものの、毎日、入ることなど、希望に合わせて、入浴時間も変更できるようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調やその日の活動状況を見ながら、休息を促している。就寝時間は特に決めておらず、好きな時間に寝ていただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	針仕事、家事、掃除、余興など一人一人の持っている得意分野を生かした役割や楽しみごとを持っていただくよう努めている。		センター方式を活用し、よりその方を把握し、楽しい暮らしができるよう支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が了解した上で、管理できる方は自分で管理している。管理ができない方もお金を使うようなときは、職員の見守りで、所持していただき、支払っていただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば、いつでも買い物や外出にいけるように努めている。普段から食材の買出し、散歩などをおこなっている。天気の良い日はドライブなどにも出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の負担にならない範囲で喫茶店に行っている。季節に応じて行事を計画し、花見やイチゴ狩りなど家族の方も参加していただいている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信の制限はしていない。自分で電話ができない方は支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間には制限を設けておらず、気軽に立ち寄りいただいている。利用者の方と楽しく話ができるよう雰囲気づくりに心がけている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員を研修に派遣し、学習する機会を設けている。身体拘束はおこなっていない。危険のないよう見守りを行い、対応している。全ての職員が理解しているとは言いがたい。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室など鍵はかけていない、一人で外出されれば、そっと見守りをしている。外出される時はスタッフに声をかけていただくよう張り紙をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に入るときは、ロックするなどして、本人の了解をとっている。見守りを中心に所在の把握、安全配慮を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品の管理が出来る方にはしていただき、物品の把握のみしている。飲んだり、切ったりなどの危険があり、管理が必要な方は事業所で管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事業所内でどのような危険があるか、リストアップはしたが、対応策がまだ、不十分である。救命処置の講習会は行ったが、繰り返し行うことが必要である。		今後も継続して行いたい。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命処置の講習会は行ったが、繰り返し行うことが必要である。また、全ての職員に徹底されていない。		取り組んでいきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は実施し、地元の消防署の方に指導していただいた。近隣の方に協力をいらし、夜勤帯など想定して実施している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	どのような危険があるか、リストアップし、職員間で話し合っている。家族にも、本人の状況や起こりえる危険について、伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行い、体調の変化には気をつけている。変化があった時は協力医に連絡し、対応していただいている。また、職員の申し送りの徹底に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬の情報を添付し、全員が確認できるようにしている。薬は飲み忘れ、誤薬がないよう注意しながら、服薬支援を行っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝、冷水(牛乳)を飲む、繊維質をとる、体操をする、ハーブティーを使用するなど自然な排便を心がけているが、それでも便秘が続く方は主治医と相談しながら、下剤をしようしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き、うがいへの声かけは行い、自分で出来る方は自分で、介助が必要な方は支援している。夕食後は入れ歯洗浄剤を使用し、清潔を心がけている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体の大きさ、運動量、体調に応じて、食事を加減している。水分は食事以外にも、おやつや体操後に水分補給できるように心がけている。特に水分管理が必要な状態の時はカルテに記入して管理している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各感染症の情報、対応はマニュアル化している。床、手すり、椅子、トイレの消毒は毎日行っている。		全職員へのマニュアルの徹底化を行いたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、買い物に行き、新鮮な食材を使うようにしている。調理器具は毎回、ハイター、アルコールでの消毒を行っている。食器は洗浄機で高温乾燥行っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	段差をなくし、誰でも出入りができるようにしている。また、殺風景にならないように、花や観葉植物を置いている。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理、整頓に心がけ、季節の花や作り物を飾り、季節が分かるようにしている。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間の何箇所かにソファや椅子を置いたり、ついたてで仕切りをしたりして、一人になれる場所を設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、本人にとってなじみのものや好きなものをたくさん持ち込んでいただいている。みなさん、思い思いの居室にされている。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は朝、夕行っている。また、各居室にエアコン、自動換気扇を設置し、その方に応じた温度調節を行っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差は少なくし、手すりが各所についているため、移動しやすくなっている。車椅子でも家事ができるよう低いシンクを設置した。また、階段も使用し、歩ける方は使用していただいている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	玄関、トイレが分かりにくく、本人が一人で行かれないことがあるため、張り紙や暖簾をつけて目印にしている。		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や花壇をつくり、趣味や生きがいづくりに役立てている。天気の良い日はベランダに椅子を出し、日光浴を楽しめるようにしている。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念の第一に、その人らしい生活ができるよう掲げ、認知症や障害を持って、その人の人生が楽しいものであるよう支援していくことに職員全員が取り組んでいる。豊かな自然の中で、四季を感じながら、家族的な温かさを大切にしている。また、食事は冷凍食品や出来合いのものはほとんど使用せず、旬の物をとり入れ、職員が手作りしている。利用者も職員も笑顔で過ごす毎日の積み重ねが、お互いに豊かな人生であったと思えるような毎日を支援しています。